

一般講演 37  
多焦点・EDOF  
Multifocal / EDOF IOL

2024 年 11 月 16 日 (土) 8:50-10:10  
第 7 会場 | 国立京都国際会館 1F Room D

座長：根岸 一乃 (慶應大)

土-講演 37-1

多施設共同研究による非回折型焦点深度拡張眼内レンズ挿入眼の視機能の検討  
Outcome for non-diffractive multifocal intraocular lenses: A multi-center study

柴 琢也<sup>1</sup>、森 洋齊<sup>2</sup>、鳥居 秀成<sup>3</sup>、長谷川 優実<sup>4</sup>、  
小島 隆司<sup>5</sup>、松島 博之<sup>6</sup>、永田 万由美<sup>6</sup>、後藤 聡<sup>7</sup>、  
神谷 和孝<sup>8</sup>、宮田 和典<sup>2</sup>

1:六本木柴眼科、2:宮田眼科病院、3:慶應大、4:筑波大、5:名古屋アイクリニックス、6:獨協医大、7:大阪大、8:北里大

【目的】Clareon® Vivity® AutonoMe® (Alcon) (Vivity) 挿入眼の術後成績を検討する。

【対象と方法】国内 6 施設で白内障手術時に Vivity を挿入し、術後 1~3 ヶ月で検査が可能であった 43 症例 62 眼 (60.5 ± 11.5 歳) を対象とした。遠方視力、近方視力、全距離視力、対数コントラスト感度関数した面積 (AULCSF) を測定し、光学的副症状の程度は聴取を行った。これらの結果と年齢、自覚円柱度数との関係を検討した。

【結果】遠方視力 (logMAR) は裸眼  $-0.08 \pm 0.11$ 、矯正  $-0.18 \pm 0.05$ 、近方視力 (logMAR) は、 $-0.09 \pm 0.09$  (70cm)、 $-0.03 \pm 0.08$  (50cm)、 $0.07 \pm 0.10$  (40cm)、 $0.33 \pm 0.19$  (30cm) であった。遠方完全矯正下における全距離視力 (logMAR) は、 $0.22 \pm 0.20$ (+1.00D)、 $-0.66 \pm 0.07$ (-1.00D)、 $0.06 \pm 0.11$ (-2.00D)、 $0.42 \pm 0.26$ (-3.00D) であった。明所グレア off の AULCSF は、 $1.72 \pm 0.11$  であり、グレア、ハローなどの光学的副症状については全症例において「なし」と回答した。術後の自覚円柱度数は  $-0.40 \pm 0.24$ D であった。各視力、コントラスト感度ともに年齢及び自覚円柱度数による影響は統計学的に認めなかった。

【結論】Vivity 挿入眼は、問題となる光学的副症状を伴わずに、良好な術後視機能を獲得することが可能であった。

【利益相反公表基準】該当有

【IC】取得有 【倫理審査】承認有